

令和元年度病虫害発生予報第 2 号

長崎県病虫害防除所長

向こう 1 か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

| 農作物名 | 病虫害名 | 発生程度 | |
|--------------|--|---|---------------------------------------|
| | | 現況 | 予想 |
| 早期水稲 | いもち病（葉いもち） イネミズゾウムシ | 並 並 | 並 並 |
| いちご （育苗床） | うどんこ病 炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ） ハダニ類（防除情報第 3 号） | 少 並 多 | 少 並 多 |
| アスパラガス | アザミウマ類（防除情報第 4 号） | 多 | 多 |
| かんきつ | そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ | 並 やや多 － やや多 並 － | 並 やや多 並 やや多 並 並 |
| びわ | がんしゅ病 灰斑病 ナシマルカイガラムシ ナシヒメシンクイ | やや少 並 並 並 | やや少 並 並 並 |
| なし | 黒星病 アブラムシ類 | 少 やや多 | 少 やや多 |
| ぶどう | 黒とう病 チャノキイロアザミウマ | やや少 並 | やや少 並 |
| 果樹共通 | カメムシ類 | 少 | やや少 |
| 茶 | 炭疽病 チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ カンザワハダニ | やや多 並 並 やや多 並 やや少 やや少 | 並 やや多 並 やや多 並 やや少 並 |

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査(37筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査(37筆)の結果、食害発生圃場率は37.8%(38.4%)、食害株率は7.4%(6.3%)であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は20.0%(41.1%)、1株あたり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率5.7%、発病株率1.1%)。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.0%、発病株率0.0%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、育苗床及び周囲の除草を徹底するなど、環境整備に努める。

イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗も処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しないで処分する。

ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤ローテーション防除する。

3. ハダニ類

令和元年5月17日付け**病害虫発生予察防除情報第3号**による。

アスパラガス

1. アザミウマ類

令和元年5月17日付け**病害虫発生予察防除情報第4号**による。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は2.8%(3.0%)であった。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.0%(過去10か年平均発生葉率0.0%)、発生圃場率は11.1%(同0.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発病枝や葉は伝染源となるので、できるだけ除去する。

3. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1か月の降水量は、平年並みの見込みである。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は6.3%(1.7%)、発生圃場率は36.1%(20.8%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

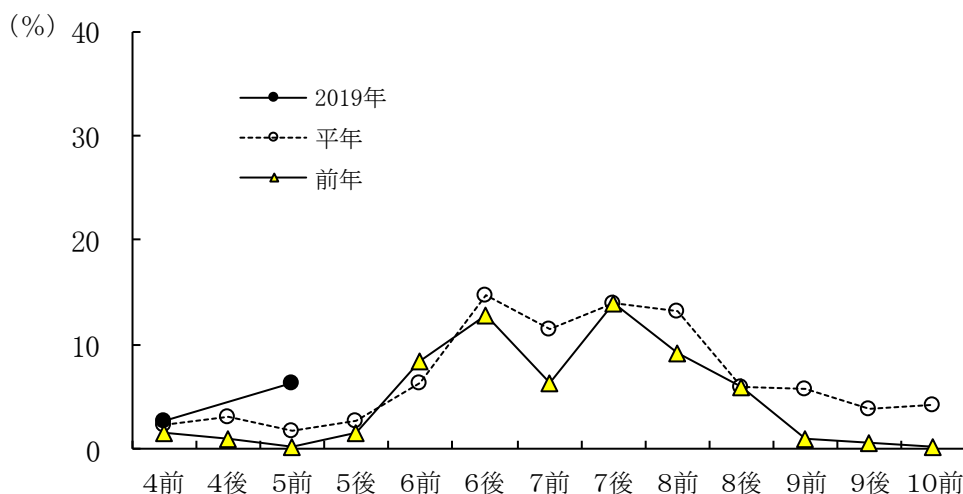


図 ミカンハダニ・寄生葉率(巡回調査)

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並で推移している（図）。

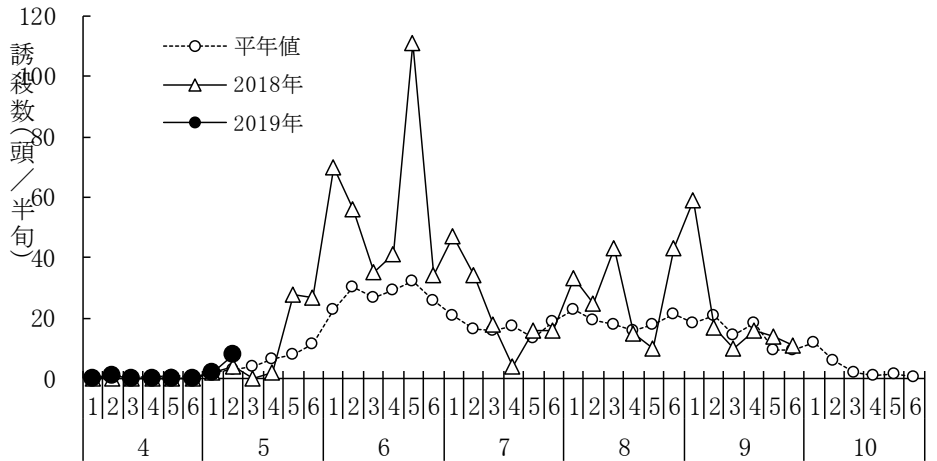


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 第2～3世代成虫の発生時期は下表のとおりと予測される。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

| 地点 | 長崎 | 佐世保 | 大瀬戸 | 口之津 | 平戸 |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 第2世代 | 6/5 | 6/7 | 6/12 | 6/6 | 6/17 |
| 〃 (平年) | 6/9 | 6/16 | 6/16 | 6/11 | 6/22 |
| 〃 (前年) | 6/1 | 6/5 | 6/9 | 6/3 | 6/13 |
| 第3世代 | 6/28 | 6/30 | 7/6 | 6/28 | 7/10 |
| 〃 (平年) | 7/1 | 7/7 | 7/9 | 7/2 | 7/14 |
| 〃 (前年) | 6/25 | 6/28 | 7/3 | 6/26 | 7/7 |
| 標高(m) | 27 | 4 | 43 | 10 | 58 |

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2019年5月12日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2:同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3:表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 表の発生ピーク予測日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。

ウ 発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

エ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

平成30年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査(15園)の結果、ヤノネカイガラムシの寄生果は認めなかった(0.2%)。

(3) 防除上注意すべき事項

下表に示した初発生予測に基づき、使用する薬剤に応じて適期に防除する。

表 ヤノネカイガラムシ初発生の予測(2019年)

| 地点 | 長崎 | 大村 | 島原 | 口之津 | 大瀬戸 | 佐世保 | 松浦 | 平戸 | 福江 | 石田 | 厳原 | 長崎 (平年値) |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------------|
| 初発生予測日 | 5/3 | 5/5 | 5/5 | 5/3 | 5/4 | 5/4 | 5/7 | 5/6 | 5/4 | 5/7 | 5/9 | 5/8 |
| 前年予測日 | 5/4 | 5/6 | 5/5 | 5/4 | 5/5 | 5/5 | 5/7 | 5/7 | 5/5 | 5/7 | 5/9 | 5/8 |
| IGR剤防除日 | 5/28 | 5/30 | 5/30 | 5/28 | 5/29 | 5/29 | 6/1 | 5/31 | 5/29 | 6/1 | 6/3 | 6/2 |
| 有機リン剤防除日 | 6/12 | 6/14 | 6/14 | 6/12 | 6/13 | 6/13 | 6/16 | 6/15 | 6/13 | 6/16 | 6/18 | 6/17 |
| 標高(m) | 27 | 3 | 9 | 10 | 43 | 4 | 5 | 58 | 25 | 26 | 4 | 27 |

注1: 方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を使用した。

注2: 初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日~4月30日)を用いて算出し、防除適期はIGR剤で初発日の25日後、有機リン剤で40日後とした。

注3: 同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.2%、発生圃場率11.3%)。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.8%(1.3%)、発生圃場率50.0%(18.8%)であった。

3. ナシマルカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(過去10年平均寄生枝葉率0.1%、発生圃場率4.0%)。
イ 有効積算温度に基づくシミュレーションの結果によると、露地びわにおける第1世代1齢幼虫の発生ピークは、県内各地で平年より3日程度早いことが予想される(表)。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるナシマルカイガラムシ第1世代1
齢幼虫の本年の発生ピーク予測日(5/13現在)

| 地点 | 長崎 | 大瀬戸 | 口之津 |
|--------------|------|------|------|
| 発生ピーク予測日(本年) | 5/24 | 5/31 | 5/25 |
| 〃 (前年) | 5/18 | 5/25 | 5/20 |
| 〃 (平年) | 5/26 | 6/2 | 5/28 |
| 標高(m) | 27 | 43 | 10 |

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、2019年3月1日を起点とし5月12日までは観測値を、以降は平年値を積算に用いた。

注2: 前年、平年の発生ピーク予測日はそれぞれ2018年、平年の気象庁アメダス観測値により算出した。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 防除適期は第1世代1齢幼虫の発生ピークであるが、露地びわの収穫時期が重なるため、発生園では収穫終了後に速やかに防除する。
- イ 防除薬剤のうち、昆虫成長制御（IGR）剤は齢期の進んだ幼虫に対しては効果が劣るので、散布時期を逸しないよう注意する。また、マシン油乳剤は高温時の散布では薬害を生じることがあるので注意する。
- ウ 樹冠内部の枝や幹に薬液がかかるように十分量を散布する。
- エ 同一地域内の圃場でも標高や土地条件により気温が異なるため、発生時期が予測日と前後する場合があるので注意する。

4. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 5月前期の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均寄生枝葉率0.0%、発生圃場率2.0%）。
- イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量では、越冬量は平年並みで、次世代の発生は平年並みと予想される（図）。

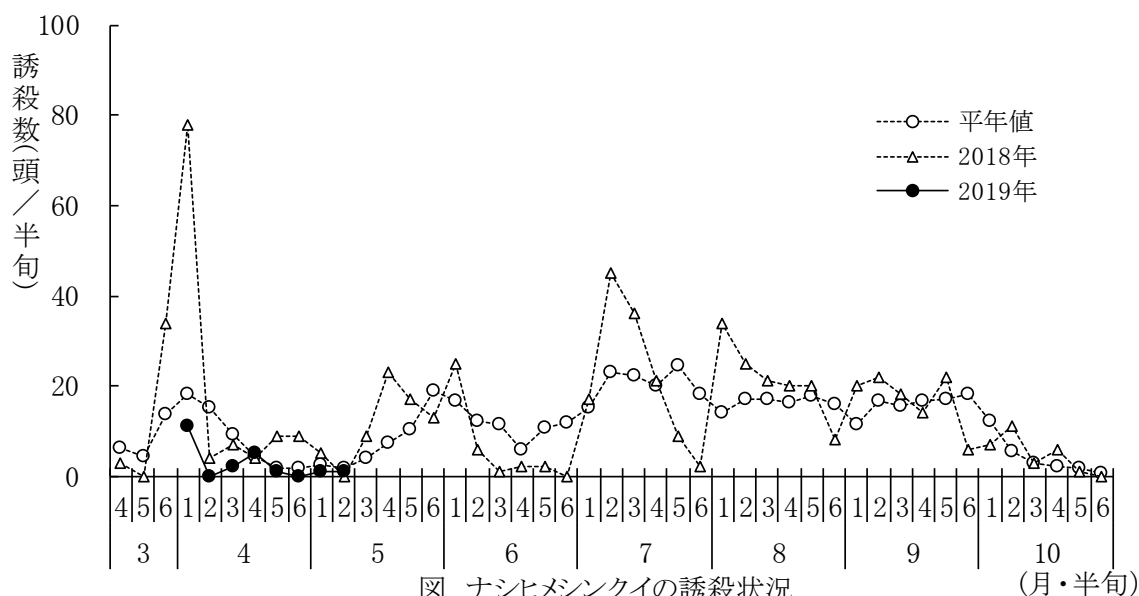


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早市小船越町:フェロモントラップ)

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査（12筆）の結果、葉と果実の発生を認めなかった（発病葉率0.7%、発生圃場率25.3%、発病果実0.3%、発生圃場率20.6%）。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生新梢率は5.3%（1.0%）、発生圃場率は41.7%（27.1%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

ぶどう

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病葉率は0.0%（0.1%）、発生圃場率は8.3%（12.5%）であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（12筆）の結果、発生を認めなかった（被害花房を認めない）。

イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並で推移している。（かんきつの項(図)参照）

(3) 防除上注意すべき事項

かんきつの項（ア、イ、エ）参照。

果樹共通

1. カメムシ類

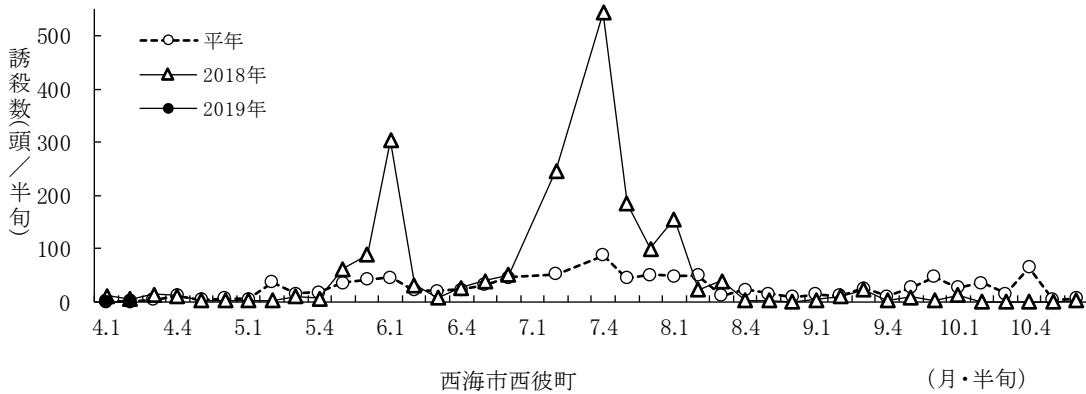
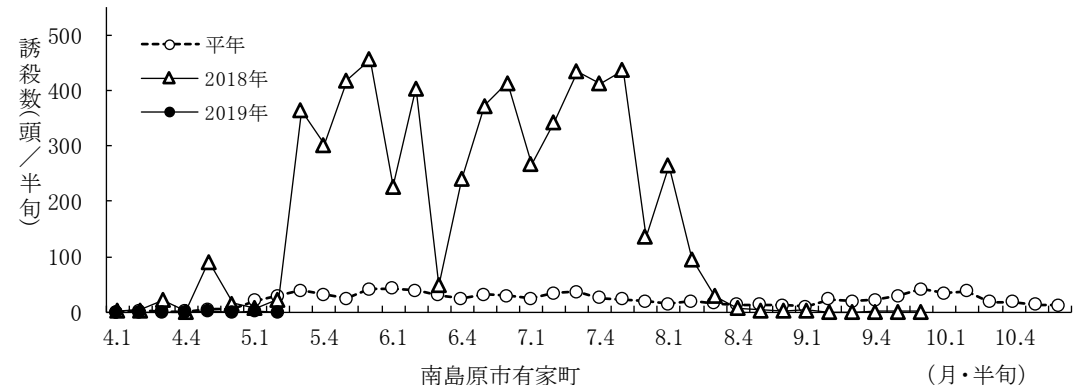
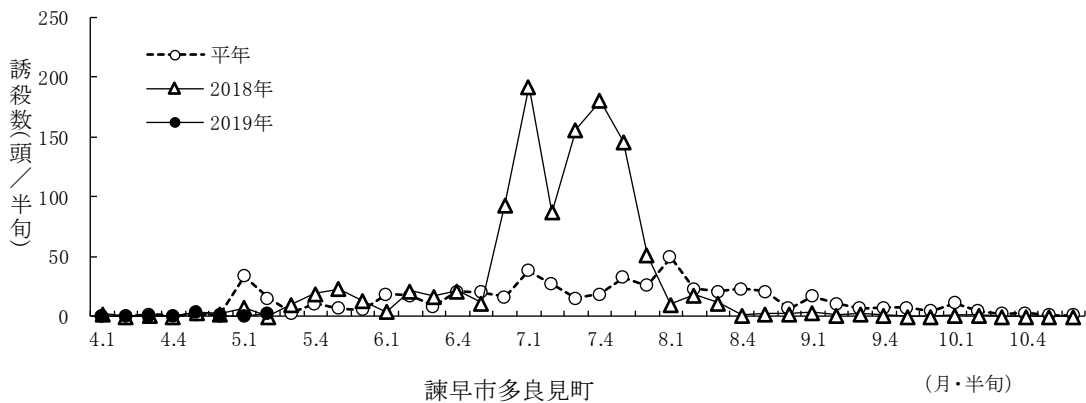
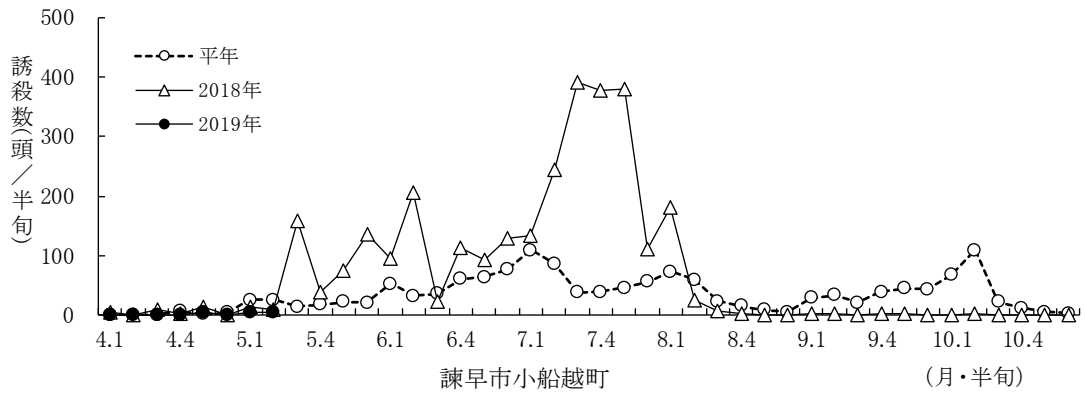
(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 1月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は平年より少なかった（平成31年2月18日付け**平成30年度病害虫発生予察技術情報第2号**参照）。

イ フェロモントラップ調査（諫早市小船越町、多良見町、南島原市有家町及び西海市西彼町）による誘殺数は平年より少なく推移している（図）。
 ウ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。



茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（20筆）の結果、発病葉数0.0枚（0.0枚）、発生圃場率5.0%（0.6%）であった。

2. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.0枚、発生圃場率0.7%）。

イ フェロモントラップによる誘殺時期（農林技術開発センター茶業研究室調査）はやや早く、誘殺量は平年より多く推移している（図）。

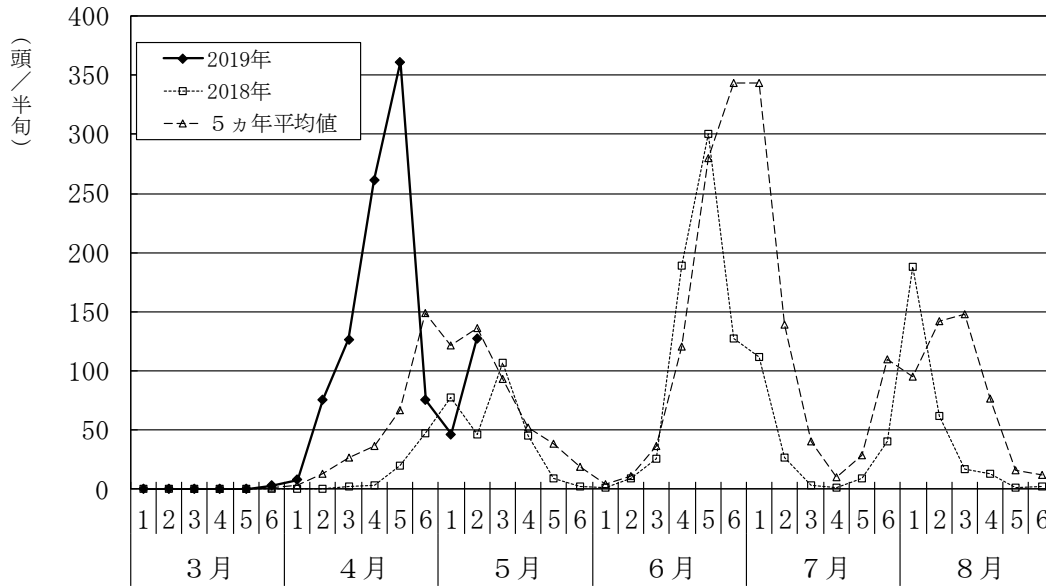


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

3. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.0枚、発生圃場率3.2%）。

イ フェロモントラップによる誘殺時期（農林技術開発センター茶業研究室調査）はやや遅く、誘殺量は平年より少なく推移している（図）。

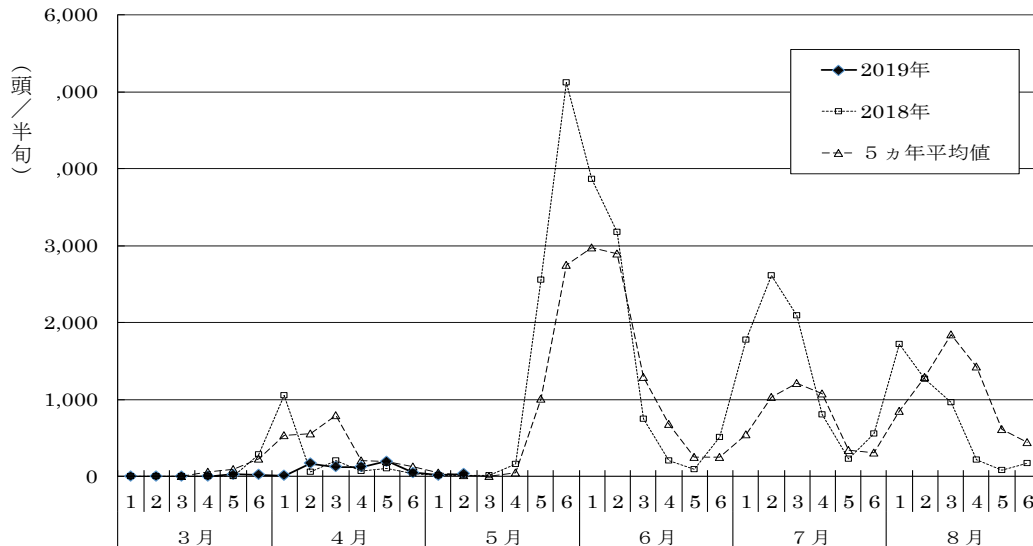


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

4. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は3.6頭（1.8頭）、発生圃場率は70.0%（47.5%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は14.2頭（7.3頭）、発生圃場率は55.0%（59.0%）であった。一部多発圃場が見られた。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

6. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月前期の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は1.0%（5.9%）、発生圃場率は30.0%（37.1%）であった。

7. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月前期の巡回調査（20筆）の結果、寄生葉率は0.2%（1.9%）、発生圃場率は15.0%（26.5%）であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

【参考】

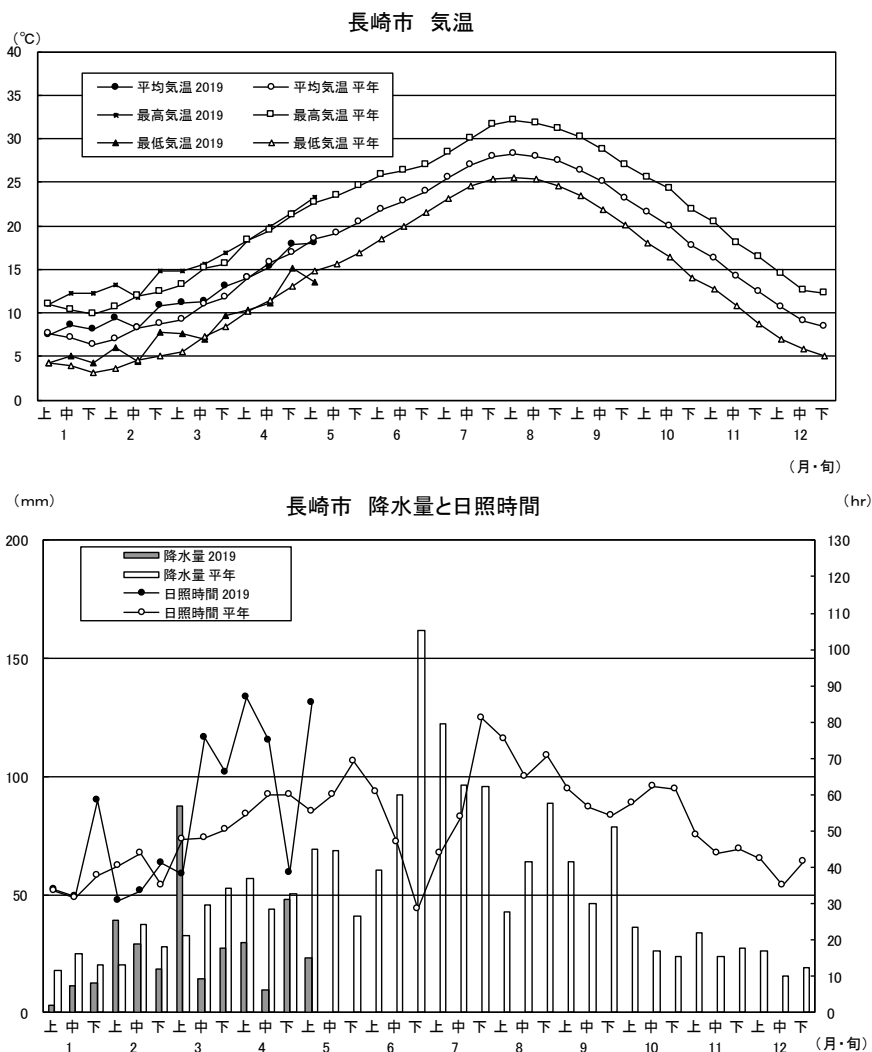
(令和元年5月16日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

| 要素 | 低い (少ない) | 平年並 | 高い (多い) |
|------|-------------|-----|------------|
| 気温 | 10 | 30 | 60 |
| 降水量 | 30 | 40 | 30 |
| 日照時間 | 30 | 40 | 30 |

※予報対象地域：九州北部地域

令和元年の気象経過 (長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

